

トンガ王国における 障害者歯科医療ボランティア活動2015年

Oral health promotion for special needs people in Kingdom of Tonga at 2015



○遠藤眞美^{1, 2)}・河村サユリ^{2, 3)}・河村康二^{2, 3)}・竹内麗理^{2, 4)}・田口千恵子^{2, 5)}・野本たかと¹⁾

1) 日本大学松戸歯学部障害者歯科学講座

2) 南太平洋医療隊

3) カフムラ歯科医院

4) 日本大学松戸歯学部生化学・分子生物学講座

5) 日本大学松戸歯学部公衆予防歯科講座

緒言

南太平洋医療隊は、1998年からトンガ王国（以下、トンガ）においてヘルスプロモーションの考え方を軸に現地の歯科医療スタッフ（以下、現地歯科スタッフ）と協力をして歯科保健医療ボランティア活動をしている。2005年から、トンガで生活する障害児・者が口腔領域に関する保健行動や医療を円滑に受けられる環境整備と良好な歯科保健行動の定着を目的に、障害者を対象とした活動（以下、本活動）へと拡大した。良好な歯科健診の受容、歯ブラシなども紛失なく管理され、必要な場合に自ら購入するなど適切な歯科保健行動の定着を認めたが、要治療でも歯科受診していないという問題点もあった。受診しない理由として、現地歯科スタッフの受入れへの不安、障害者自身が抱く歯科治療への恐怖が考えられた。そこで両要因の解決をはかるために2015年に国立病院歯科室にて受診体験事業を実施したので報告する。

対象

トンガのヌクアロファ島（本島）にある主に知的障害、自閉スペクトラム症などの障害児・者が通う施設利用者をとした。施設はTonga red crossによって1986年に設立し、運営されている。利用者は居住地で2クラスに分けられ、週に2日、通園している。



活動

【2015年活動開始時の歯科健診時での現状】

1. 歯科健診、体重測定など全員が良好に受容
2. 歯磨き方法の習得状況に問題なし
3. 歯ブラシは紛失なく管理され、必要な場合に自ら購入
4. 要治療であっても歯科受診をしていない

↓ 歯科受診に至らない理由は何か？

- ・現地スタッフの受け入れに対する不安
- ・障害児・者自身が抱く歯科治療への恐怖

【国立病院の歯科診療室受診体験事業の立案】

1. 施設のバスで施設から国立病院へ移動
2. 歯科診療室へ入室後、見学
3. 恐怖心の少ない利用者をユニットへの導入し、仕上げ磨きおよび機械的歯面清掃実施（最初の術者は本隊、その後現地歯科スタッフとした）
4. 希望者にも同様に実施
5. 記念撮影

【国立病院の歯科診療室受診体験事業当日までの流れ】

- ・本隊による現地歯科スタッフへの事前学習
系統的脱感作法、TSD法、スケジュールの構造化など行動調整法を指導した、また、水平位診療の確認、練習を繰り返した。
- ・施設利用者へ事前にスケジュール提示
病院の絵などを提示しながら、当日の流れを事前に現地歯科スタッフと施設スタッフが協力して施設利用者へ何度も説明した。

【国立病院の歯科診療室受診体験事業後の変化】

- ・施設利用者は「楽しかった」「また、来たい」などの感想があった。
- ・新たなことを受け入れるのが苦手な施設利用者たちが体験によって円滑に歯科受診練習を受け入れていく様子を見た施設スタッフが他の日常生活活動でも応用したいとできるのではと事前学習の重要性を理解しながら、様々なことへ応用する計画を立てていた。
- ・本隊が立ち合うことで現地歯科スタッフが不安なく、本事業を実施できた。この経験が自信となり本隊帰国後も現地歯科スタッフが自ら歯科診療室で予防処置を行うことになった。

【体験事業当日の様子】

※各クラスに対して1回ずつ実施した。

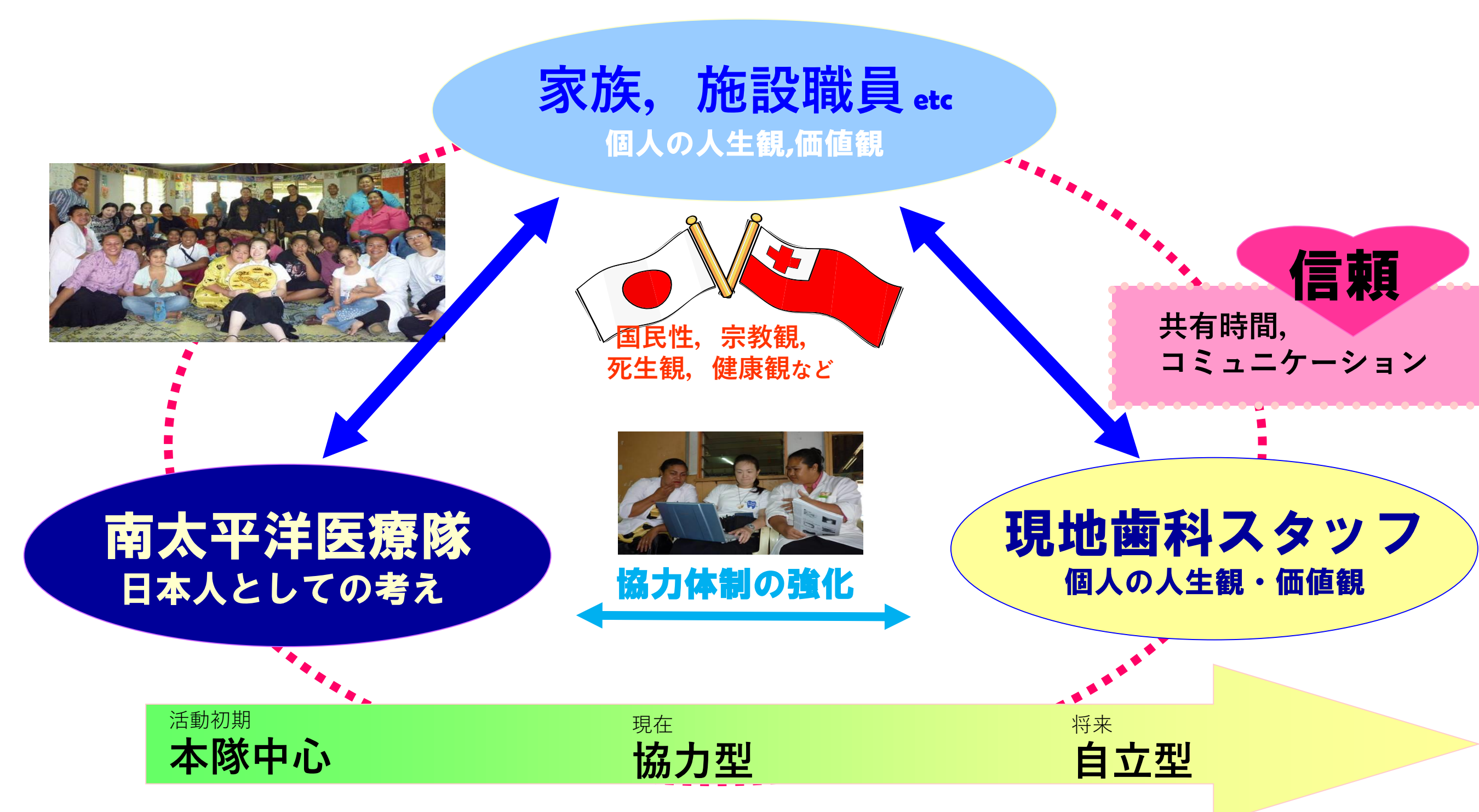


号泣、逃亡していた者も最終的に全員が笑顔となった。

考察

国際歯科医療活動では、訪問したボランティアによる治療が優先されることもあるが、本隊は現地スタッフ自身が将来、治療まで行えるために生活支援を中心に内容を拡大してきた。長年の関わりによって、対象者や現地歯科スタッフ、施設スタッフとの信頼関係は確実なものとなっている。しかし、歯科受診に至らないという課題があった。それらは現地歯科スタッフの受け入れに対する不安、障害児・者自身が抱く歯科医療への恐怖であるためと推察され、本隊が現地歯科スタッフの指導者となり障害児・者の治療や予防処置の学習を促しながら、施設スタッフも含めたなじみのメンバーで診療室での体験学習を行うことを計画したところ、円滑な受診体験となり、現地歯科スタッフや利用者、施設スタッフまでの意識を変化させた。

当初、障害児・者に関する活動は本隊だけで行うべきという考えであった現地歯科スタッフも活動を通して専門職としての自覚が生まれ、現在は自ら計画・実践するになっており、今後のトンガ独自の活動への展開が期待される。



演題発表に関連し、開示すべきCOI関係にある企業・団体などはありません。